



Smart & Safety

NTTファシリティーズグループ

CSR報告書 2018

ハイライト版

私たちは、Smart & Safetyで 持続可能な社会の実現に貢献し続けます。

私たちNTTファシリティーズグループは、人権の尊重、雇用と職場における差別の撤廃、そして腐敗防止への取り組みを経営の基盤とし、ICT・エネルギー・建築の技術を融合した環境ソリューションで、「Smart & Safety」な街づくりに貢献し続けます。



会社概要

- 商号 株式会社NTTファシリティーズ
(NTT FACILITIES, INC.)
- 本社所在地 東京都港区芝浦3-4-1グランパークタワー
- 営業開始日 1992年(平成4年)12月1日
- 資本金 124億円
- 従業員数 5,277名
(2018年3月31日現在・NTTファシリティーズグループ)

- 業務内容
建築物・電力設備のコンサルティング、
企画、設計、保守、維持管理など
- 地域会社(2018年4月1日現在)
株式会社NTTファシリティーズ中央・北海道・東北・
東海・関西・中国・九州

- グループ会社(2018年4月1日現在)
株式会社NTTファシリティーズFMアシスト
株式会社NTTファシリティーズ総合研究所
株式会社NTTファシリティーズ エンジニアリング
NTT FACILITIES USA, INC.
Unitrio Technology Limited
Pro-Matrix
Electronic Environments Corporation
株式会社エネット

INDEX

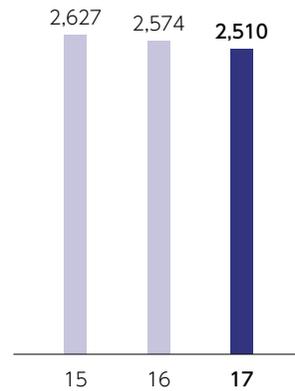
基礎情報	会社概要	1	社会と私たち、 より良い明日への約束	社会の期待と、NTTファシリティーズのアクション ...	8
	財務・非財務パフォーマンス	2		人と社会のコミュニケーション	9
社会とファシリティ	私たちの事業と社会	3		人と地球のコミュニケーション	10
	主な製品・サービスハイライト	4		安心・安全なコミュニケーション	13
私たちの挑戦	トップメッセージ	5	CSR経営の基盤	チームNTTのコミュニケーション	14
	私たちのサステナビリティ戦略	7		コーポレート・ガバナンス、CSRマネジメント体制	15
				NTTグループの一員として	16
				企業倫理・人権啓発・コンプライアンス	17
				新大橋ビルの成果とこれから	18
			第三者意見	19



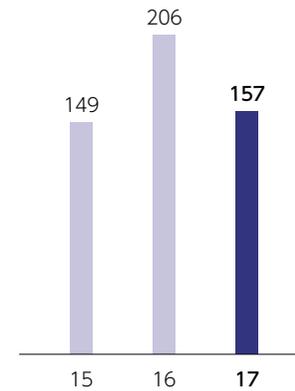
Financial/
Non-Financial
Highlights

財務パフォーマンス

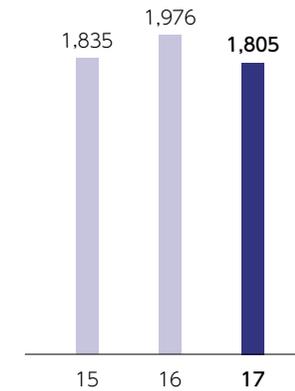
売上高 (億円)



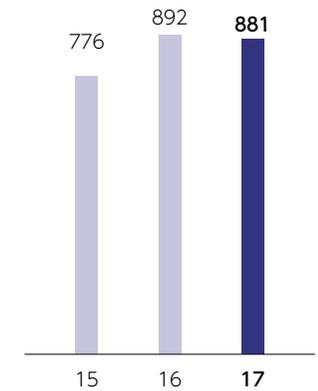
経常利益 (億円)



総資産 (億円)

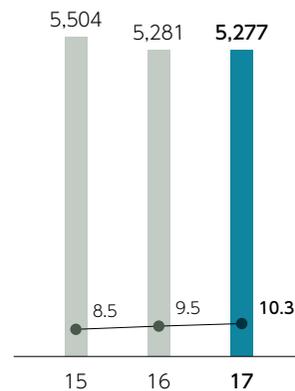


純資産 (億円)



非財務パフォーマンス

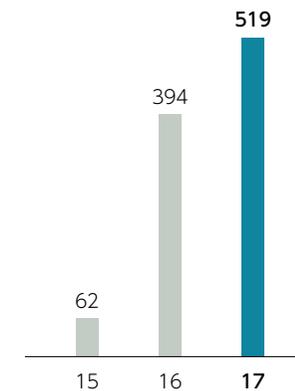
従業員数 (人) および
女性従業員比率* (%)



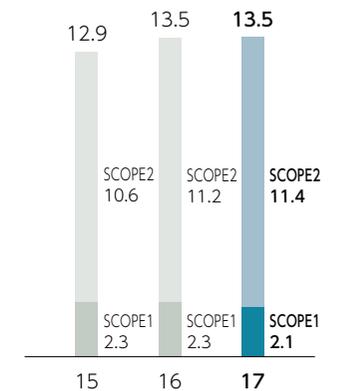
新卒採用社員数 (人)



セキュリティ人材数 (人)



温室効果ガス排出量 (千t-CO₂)



■ 財務パフォーマンスはNTTファシリティーズ

■ 非財務パフォーマンスはNTTファシリティーズグループの合計 (温室効果ガス排出量はエネット社を除く)

*女性従業員比率は国内のみ

私たちの事業と社会

私たちNTTファシリティーズグループは、「地球環境を考えた統合ファシリティサービスでお客様から最も信頼されるパートナーとなる」という理念のもと、様々な場所で社会を支えています。

事業領域 1	事業領域 2	事業領域 3	事業領域 4
<h2>脱炭素</h2> <p>『脱炭素』は、今や世界的な潮流であり、各企業にとって取り組むべき課題です。私たちは省エネは勿論のこと、創エネから再エネまで、エネルギーのあり方を追求し、『脱炭素』社会の実現に向けて貢献します。</p>	<h2>スマートビルディング</h2> <p>現在の省エネルギー対策は、『地球環境』や『働く人への配慮』も求められています。私たちはIoTを活用した省エネと、太陽光発電などによる創エネを組み合わせ、先進のスマートビルディングを実現するとともに、働く人にも快適な環境を構築します。</p>	<h2>ファシリティマネジメント</h2> <p>企業経営の第4の基盤とも言われ、経営資源である土地や建物。私たちは経営的な視点から、運用に関わるコストを抑えながら資産価値を向上し、総合的に『ファシリティのパフォーマンス』を最大化します。</p>	<h2>データセンター</h2> <p>ビッグデータ、AI、IoTを支えるデータセンターでは、情報通信量が飛躍的に増大し、エネルギーコストの増加、設備容量の肥大、運用の複雑化などの経営課題が顕在化。私たちはデータセンター構築から保守まで『包括的サポート』で課題解決に貢献します。</p>
<p>グリーン電力販売事業</p> <p>再エネ Fグリーン電力</p> <p>地域新電力事業</p> <p>省エネ 創エネ</p> <p>太陽光発電構築・保守</p> <p>創エネ MEGA SOLAR</p>	<p>ZEB ネット・ゼロ・エネルギー・ビル</p> <p>省エネ 創エネ NTTファシリティーズのZEB</p> <p>ウェルネスオフィス</p> <p>生産性向上</p>	<p>ファシリティマネジメント</p> <p>コスト削減 資産価値向上 ファシリティマネジメント(FM)</p> <p>FM-BPO[®]サービス</p> <p>戦略的な施設管理 BPO サービス</p> <p>災害対策/事業継続</p> <p>リスク回避 建物安全度判定サポートシステム 揺れモニ</p>	<p>高効率空調ソリューション</p> <p>省エネ 高発熱対応 高信頼性 CyberAir[®] 下取型</p> <p>高信頼電源ソリューション</p> <p>省エネ 省スペース 高信頼性 FR シリーズ</p> <p>高機能運用・保守ソリューション</p> <p>安心安全 効率化 監視・保守サービス</p>

主な製品・サービスハイライト

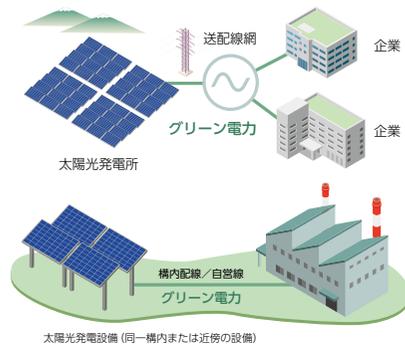
事業領域 1

脱炭素

Fグリーン電力

低炭素、脱炭素社会に向けた世界規模の枠組みが整備される現在、日本企業も業種や規模を問わずグリーン電力の活用が求められています。NTTファシリティーズは、CO₂排出量削減に有効なグリーン電力を直接お客様に提供するサービスを行います。

太陽光発電をはじめとした再生可能エネルギーによる電力供給、地域新電力との連携、グリーン電力の最大活用(利用率最大化)に向けた省エネ、エネルギーマネジメントを、お客様のご要望に合わせてご提案。持続可能な社会の実現への取り組みをサポートします。

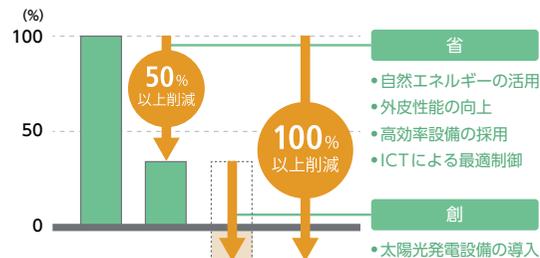


事業領域 2

スマートビルディング

ZEB

ZEB(ネット・ゼロ・エネルギー・ビル)は、建築・設備の省エネ性能向上や自然エネルギーの活用などにより、年間一次エネルギー消費量がゼロ以下となる建築物であり、低炭素社会実現への切り札の一つとして注目されています。NTTファシリティーズでは、高効率設備の導入や、最新のICT技術、IoT技術などの活用、効率的な太陽光発電設備の設置により、施設の用途に合わせて自然エネルギーを上手に取り込む建築計画を実施。ZEBをめざした最先端の省エネビルディングのプランニングをワンストップで提供します。



事業領域 3

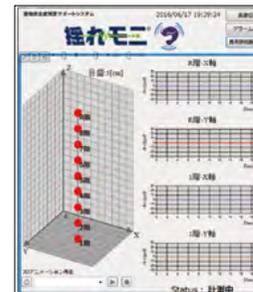
ファシリティマネジメント

建物安全度判定サポートシステム 揺れモニ

「揺れモニ」は、地震後の建物被災状況の調査に要する時間の短縮および費用の軽減に対するニーズや建物継続使用に対する不安の声に応える建物安全度判定サポートシステムです。

建物の全フロアにセンサを設置し、データを取得・分析することで、フロア単位で安全度判定に参考となる情報を提示し、避難対応をサポートします。

また、「揺れモニ」を導入した複数のビルについて地震後の建物安全度判定に参考となる情報を一元的に表示する機能など、さらなる機能を充実させて進化しています。

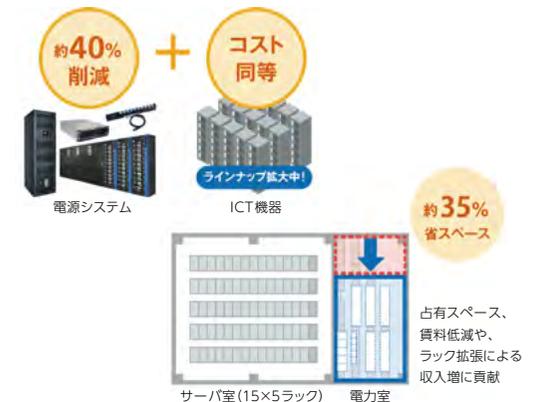


事業領域 4

データセンター

HVDCシステム

直流給電(HVDC)システム[FR]シリーズは、クラウドサービスの普及などを背景にますます重要度を増すデータセンターにおける電力の安定化と省エネ化、故障率の低減に貢献する、最先端の製品・ソリューション群です。なかでも[FR-HV]シリーズは、従来の交流電源と比べ約40%の電力変換ロス改善を実現するとともに、約35%の省スペース化を実現。極めて高い稼働率とともに、データセンターの省エネ性、信頼性、経済性へと貢献します。同シリーズは発売以来600を超えるシステムで採用されています。



トップメッセージ

ファシリティのスペシャリストとして、 より快適な社会、より良い未来に、挑戦し続けます



株式会社NTTファシリティーズ
代表取締役社長

一法師 淳

社会のキーワードとなったSDGs

2018年、より良い未来の実現に向け、社会が大きく動きつつあることを実感しています。街中で、そしてビジネスの場で、「サステナビリティ」「ダイバーシティ」といった言葉を、皆様もかつてなく頻繁に目にするようになったのではないのでしょうか。これらは、官民連携しての女性活躍推進への働きかけや東京2020大会に向けた機運もあると思いますが、加えて国連「持続可能な開発目標(SDGs)」による世論喚起が大きく貢献していることを強く感じます。今や小中学校での授業から経営会議、経済団体の提言まで、幅広く取り上げられるようになった同目標は、より良い未来に向けた世界共通の視座と

して重きをなすに至りました。その提唱以来注目し、自らの事業との関わりを見据えてきたNTTファシリティーズの経営者として嬉しく感じるとともに、さらなる貢献へと意を強めています。

全員で、自分にできることを考える

ステークホルダーの皆様に、当社のCSRをより実感を持ちご理解いただく上でSDGsは有意義なものです。そのため今年の「ハイライト版」報告書では、同目標と私たちの事業、そしてCSRとの関わりを紐解くことに主眼をおきご用意しました。皆様の日常の様々な場所で、「ファシリティ」

を通じて関わりを持つ私たちの事業とCSRをより身近に感じていただければ幸いです。

ところで、同目標が社会に幅広く共感を得た理由は何でしょうか？ 私は、その一つとして、幅広い人が自らのこととして貢献を考えることができる普遍的なテーマである、という特徴に注目しています。

社員一人ひとりが、同僚は勿論、お客様や取引先の皆様、幅広い社会の皆様と共に、自分にできることを考えるきっかけとしていくことで、「Smart & Saftyで持続可能な社会の実現に貢献し続ける」ことを企業ビジョンに掲げる私たちが社会に対して価値を創造していく機会は、一層広がると感じています。

トップメッセージ

新たな環境目標

主な定量・定性目標(抜粋)

レジリエントで
脱炭素化している未来へ

- 事業からの温室効果ガス排出量の削減:
SCOPE1、2で2030年度までに40%以上削減
- サプライチェーンでの温室効果ガス
(SCOPE3)の排出量削減
- 再生可能エネルギーの利用促進

資源が循環している未来へ

- 持続可能な資源利用の実践
- 自社オフィスのゼロエミッションの継続
自然と共生している未来へ
- 生態系保全に向けた活動の多面的な推進

インパクトの大きなことに、
長期的視野で挑戦する

国連はSDGsを着実に達成するための「実践ガイドライン」を定め、企業に対し事業やCSRの特徴を活かしつつ、社会に与えるインパクトが大きいテーマにこそ取り組むよう求めています。これは当社のCSR活動の考え方に深く通じるものです。先進的なファシリティの普及やレジリエントなインフラの構築、脱炭素社会の実現への貢献、多様性を尊重し合う職場づくりなど、私たちは今年もNTTグループが掲げる4つのマテリアリティ(CSRテーマ)に即した挑戦を続け、それぞれ大きな成果をあげました。長期的視野に立ち社会に価値を創造するという姿勢は、私たちは勿論、NTTグループに共通する姿勢であり、これからもグループ間でのシナジーを活かしつつ、より良い未来の実現に貢献していきたいと考えています。

新たな環境指針と
長期目標を策定

サステナブルな未来の実現を考える時、地球環境問題は大きなテーマの一つです。地球温暖化抑制に向けては各国が批准する「パリ協定」がありますが、SDGsでも環境に関して複数の目標を掲げ多面的な取り組みが推進され、私たちの事業の特徴を活かした貢献への期待も日々高まり続けています。このような状況を踏まえ、私たちはこのたびNTTファシリティーズグループ地球環境保護基本理念を改定するとともに、2030年度に向けた新たな長期環境目標を設定しました。同理念及び目標の詳細は当報告書内でご紹介していますが、温室効果ガス排出量の大幅削減など、いくつもの意欲的な目標を定めていることが特徴です。また、NTTが加盟する「EP100」、「EV100」に伴う目標の達成に向けての取り組みも積極的に推進し、それらの成果を来年の報告書で紹介できるよう前進していきたいと考えています。

おわりに

私たちはこれからも、ファシリティとサステナビリティの関わりを深めてゆく企業グループとして社会課題の解決へ挑戦し続けます。より良い企業グループとなるため、ステークホルダーの皆様との協働は極めて重要です。皆様には変わらぬご支援、ご協力を頂戴できれば幸いです。

株式会社NTTファシリティーズ
代表取締役社長

一法師 淳



私たちのサステナビリティ戦略 ~4つのマテリアリティに即した、長期的視点でのCSR

私たちは、企業ビジョンに持続可能な社会づくりに貢献し続けることを使命と掲げています。

これを実現していくために、「NTTグループCSR憲章」に掲げる4つの「マテリアルなCSRテーマ」を設定し、事業の特性を活かした継続的なCSR活動を推進しています。

その活動は社会の期待とともに進化を続けており、特に2017年度は国連SDGsに対する貢献への在り方の検討が一層進み、事業の様々な局面で新たなアクションが開始しました。



Theme 01

人と社会の コミュニケーション

私たちのめざすもの

私たちは、社会の持続的発展のため、革新的ICTを開発・提供することで、より豊かで便利なコミュニケーション環境を実現し、国内外の様々な社会的課題の解決に貢献します。

重視している社会の変化

IoT (社会の様々な機器のネット連携)の進化と、社会のスマート化



Theme 02

人と地球の コミュニケーション

私たちのめざすもの

私たちは、グループ事業全体にわたって環境負荷を低減し、ICTの利活用による社会全体の環境負荷低減に取り組み、様々な地球規模での環境問題の解決に努めます。

重視している社会の変化

地球温暖化の進行とエネルギー資源の枯渇



Theme 03

安心・安全な コミュニケーション

私たちのめざすもの

私たちは、社会を支え生活を守る重要なインフラを提供する企業グループとして、社会的・倫理的な課題の克服に真摯に取り組み、情報セキュリティの確保や災害・サイバー攻撃にも強い安心・安全なコミュニケーション環境を提供します。

重視している社会の変化

自然災害の頻発・激甚化



Theme 04

チームNTTの コミュニケーション

私たちのめざすもの

私たちは、「チームNTT」として、様々なパートナーの皆様とともに高い倫理観と人権意識を持って事業に取り組み、ダイバーシティを尊重した働きやすい職場環境の整備や個の成長に努め、豊かな地域社会づくりに貢献します。

重視している社会の変化

多様な人が活躍できる環境づくり



特集:SDGsとの価値の共有



2030年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です

Delivering a Sustainable Future

社会と私たち、より良い明日への約束

私たちNTTファシリティーズは、かねてより「Smart & Safety」を掲げ、グローバルなインフラ企業として、地球の一員として、サステナブルな社会に貢献する多彩な活動を展開してきました。

2017年、SDGsの加味を開始した私たちは、より豊かで安心な未来の実現に、グループ全員で挑戦し続けます。

社会の期待と、NTTファシリティーズのアクション

ファシリティの力を世界に、 より先進的な生活を

日々、世界経済は発展を続けており、それを支える社会インフラのイノベーション(技術革新)へと期待が高まっています。私たちは、IoT(社会の様々な機器のネット連携)の進化と、社会のスマート化を踏まえ、先進的なファシリティの実現に日々取り組みます。



Theme 01

人と社会の
コミュニケーション



Theme 02

人と地球の
コミュニケーション



Theme 03

安心・安全な
コミュニケーション



Theme 04

チームNTTの
コミュニケーション



全ての人を尊重し、 生き生きと活躍する私たちを

年齢や性別、文化など、全ての人の多様性が尊重される社会の実現に向け、企業の一層の貢献が求められています。私たちは、多くの人々が共に働くチームとして、また、企業市民の一員として、多様性を尊重し、活かす企業風土を徹底します。

安心で快適、 信頼性の高いインフラを

自然災害対策やICTインフラの高信頼化、サイバー犯罪対策など、安心・安全な経済活動・日常生活の実現がグローバルな課題となっています。私たちは、レジリエントで信頼性の高いインフラの実現に資するファシリティを提案し続けます。

豊かな地球が育まれる、 サステナブルでグリーンな未来を

気候変動問題やエネルギー資源の枯渇、生物多様性問題など、豊かな地球環境を将来に託すため、世界規模で多面的な対策が急がれています。私たちは、社会の低炭素化と脱炭素化、低負荷・省資源化に向け、長期的な視点で挑戦します。



Theme 01

人と社会の コミュニケーション

イノベーションで支える、より良い明日

NTTファシリティーズは、先端技術の開発など、未来のファシリティを見据えた検証を自社の拠点で多面的に展開。その成果をお客様ひいては社会の皆様へと提供しています。

IoTとAIを活用したファシリティへの期待

ICT技術の進化と、幅広い社会浸透を背景に、オフィスや住環境といったファシリティの有り方にも、変化が求められています。具体的にはIoTとAIを積極活用し、快適性と効率性を両立した設計と運用を実現することです。私たちNTTファシリティーズは、この社会課題を見据え、自社の研究開発及び事業拠点で実証的な取り組みを展開し、お客様の期待に応える技術・ノウハウの蓄積を進めてきました。

ウェルネス向上を通じた働き方改革への貢献

私たちは現在、働く人の心と体の健康を促進する「ウェルネス」の考え方を、「働き方改革」に寄与する施設要件と位置づけ、安全性や環境性ととも重視しています。例えば新大橋ビルでは、導線のスムーズ化や快適なフロア配置、きめ細かい設備制御などに着目。各種センサーによる行動モニタリングをもとにしたシミュレーションなどを行い、部署配置の最適化や作業スペースの見直しなどを実施。移動時間の短縮やミーティング機会の確保、利用者の満足度の向上などを実現しました。

主な働き方改革の事例：

(移転前後の比較
いずれもNTTファシリティーズ調べ)

集約による
移動時間の短縮

42%

オフィス環境に
対する満足度

83%

他部門との
ミーティング機会

1.9倍

NTTファシリティーズ各拠点で続く蓄積

こうした成果はグループで積極的に共有され、また各地の自社拠点でも実証的な施策が続いています。例えば広島にあるNTTファシリティーズ中国の本社オフィスは、リニューアルのコンセプトの一つに「Connect」を掲げ、労働時間に対するコミュニケーション時間を指標に加えた効果検証などを実施。本社機能として重要な集合知の蓄積と活用を先進的なICT設備を交え促進する同オフィスは2017年度の第30回日経ニューオフィス賞「中国ニューオフィス推進賞(中国経済産業局長賞)」を受賞しました。

先進の技術で、社会の進歩を

NTTファシリティーズ中国本社オフィスは構築後の運用にも着目し、「行動モニタリングによる働き方の可視化」や「サイネージによる情報発信」等の先進技術を駆使した“進化するオフィス”をめざしています。

このような取り組みを自社で実践することにより、お客様に寄り添ったオフィスリニューアルの提案ができるよう前進していきます。

NTTファシリティーズ
中国支店 ファシリティ事業部
エンジニアリング&コンストラクション部 建築設計担当 米司 晴恵





Theme 02

人と地球の コミュニケーション

地球温暖化対策に、ファシリティで貢献する

NTTファシリティーズは、対策が急がれる地球温暖化問題を重視し、不可欠なインフラとなったデータセンターのエネルギー効率改善に挑戦し続けます。

日々、深刻化するデータセンターの「熱問題」

ネットワーク社会を支えるICT機器は、その性格上、高い電力消費を要します。データセンターは、それらを集中管理することで社会全体のエネルギー効率を改善する役割も担っています。一方、演算性能の強化に加え、クラウド上でのシステム開発やAI技術の活用など、ICT機器の電力消費量は顕著な増加を続けており、データセンターの面積当たり発熱量（発熱密度）増大が、グローバルな社会課題となっています。

限られた施設面積を有効に活用する

データセンターを長期間にわたり効率的に運用するため、将来を見越した設備設計が重要であると、私たちNTTファシリティーズは考えています。特に冷却設備には、さらなる発熱密度の増大へと柔軟に対応できる工夫が大切です。これを踏まえ、私たちは現在、屋外の冷却設備（空調設備）をサーバフロアにバルコニー配置することで、屋上スペースを今後の設備拡張へと保持しておくという、新たな設計コンセプトを提案しています。

新たな技術へと挑戦を続ける

屋内での冷却設備においても、先進的な技術の採用が検討されています。「液冷」の活用もその一つです。従来のICT機器の冷却は冷気を活用した「空冷」が主流ですが、これを液体に置き換えることで冷却効率を大きく改善する仕組みへと、関心が高まっています。液冷システムは開発途上の技術であり、またその積極活用には設備構成ひいてはフロアレイアウトに変更を要するため、私たちは現在、データセンターの規模や用途も踏まえた空調方式の構成など、最適な利用方法の検証を続けています。

温暖化防止に、ファシリティの力を

NTTファシリティーズは、世界的にトレンドになっている省エネ型空調を目利きし、海外メーカーと提携・日本市場向けにカスタマイズを行って提供しています。

2016年には、水の気化熱利用により超高効率を実現する「間接蒸発冷却式空調」の販売を開始しました。空調消費電力を大幅に削減し、温暖化防止に貢献します。

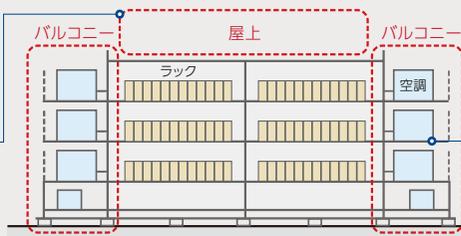
NTTファシリティーズ
ソリューション本部 データセンター部
ソリューション開発担当

流田 麻美



柔軟性の確保

液冷熱源用
チラー・冷却塔の
設置スペース。
将来の超高発熱化
に対応



放熱面積の拡大

ベース空調機用
設計時点で
想定される発熱を
処理高効率空調
を設置

Theme 02
**人と地球の
 コミュニケーション**

社会の脱炭素化を、安定的に支える

NTTファシリティーズは、世界規模で進む再生可能エネルギー活用による脱炭素化の実現に向け、太陽光発電事業・EPC事業・保守事業の専門家として多面的に促進します。

安定した太陽光発電所の構築・運用は、社会的な課題に

2012年にFIT（固定価格買取制度）が施行され、日本全国で太陽光発電所の導入が飛躍的に拡大しました。しかし、発電所の数が増えるにつれ、近隣とのトラブルや自然災害による破損、周辺への影響などの問題もクローズアップされてきています。こうしたことから、2017年4月に施行された改正FIT法では法律の眼目が「設備認定」から「事業計画認定」に移行し、20年間の発電事業を運営できる適切な構築・運用が求められるようになりました。

社会の太陽光発電の普及に貢献

私たちNTTファシリティーズでは、自社発電事業・EPC事業・保守事業の3つの側面から太陽光発電に携わっています。2017年度までに80ヵ所269MWの自社発電所を構築し、そこで得られたノウハウを、1,315ヵ所469MWのEPC事業、1,000MWを超える保守事業にも生かしてきました。国連SDGsの目標7「エネルギーをみんなに、そしてクリーンに」が提唱する、社会の脱炭素化という人類共通の課題に対し、自社及びお客様の太陽光発電事業の長期安定化を通じて社会に貢献していきます。



大熊エネルギー・メガソーラー発電所（福島県）

損害保険付き保守サービスの開発

太陽光発電事業の安定化に貢献するさらなる取り組みとして、保安規程に準拠した点検や設備の遠隔監視、故障駆付け・発電診断など、お客様の要望に応じた総合的な保守サービスを提供してきました。これに加え、2017年1月からは「損害保険付き太陽光発電所保守サービス」もスタートさせました。故障駆付けから復旧、保険請求に至るまで、故障発生時の対応を一元化することで発電事業者の手間を省き、故障修理の迅速化による売電損失の削減が見込めます。

社会の脱炭素化を支えとともに

NTTファシリティーズでは、東北の被災地においても太陽光発電事業を行っており、2017年度には大熊エネルギー・メガソーラー発電所、F飯舘太陽光発電所を竣工しました。太陽光発電所を導入することによる脱炭素化の促進だけでなく、被災地の復興支援や地域の活性化にも貢献しています。

NTTファシリティーズ中央
 ソリューション本部 スマートエネルギー部
 第二システムエンジニアリング部門

木田 喜子





Theme 02

人と地球の コミュニケーション

新・環境目標達成に向け

2018年12月、私たちNTTファシリティーズは、社会・経済環境の変化を踏まえ、NTTファシリティーズグループ地球環境保護基本理念と、長期環境目標の改定を行いました。

国連SDGsが各ゴールで求めるように、よりよい未来の実現に向け、人類は経済活動が社会に与える機会の最大化とリスクの最小化をともに見据える必要があります。私たちNTTファシリティーズも、ファシリティのスペシャリストとして、人と地球が調和する持続可能な社会の実現へと多面的に貢献してゆきます。

NTTファシリティーズグループ地球環境保護基本理念

NTTファシリティーズグループは、環境経営を実践し、すべての人が豊かに安心して暮らすことができる“人と地球が調和する持続可能な社会”の実現に貢献します。

私たちの環境テーマ：気候変動の緩和と適応、資源の循環、自然との共生 基本方針

- (1) ICT・エネルギー・建築の技術を最大限に発揮した環境ソリューションの開発と提供により、気候変動の緩和と適応に貢献します。
- (2) 効率的な資源やエネルギーの利用、資源循環に積極的に取り組み、持続可能な資源利用の達成に貢献します。
- (3) 事業活動と生態系とのつながりを常に意識し、生物多様性を保全し生態系を未来につなぐ取り組みに貢献します。
- (4) ステークホルダーの皆さまとも協働し、自然資本や生物多様性の保全につながる環境保護活動を推進し地域社会に貢献します。
- (5) 環境保護に関する法令や規制、ステークホルダーの皆さまとの取り決めなどを順守します。
- (6) 環境保護に関する方針や取り組み状況を公開し、社内外とのコミュニケーションを図ります。
- (7) 環境マネジメントシステムの構築と運用により、環境パフォーマンスの向上と環境リスク低減の両立を図るとともに内部監査や経営層によるレビューを通じて環境保護の取り組みを継続的に改善していきます。

NTTファシリティーズグループ環境目標

レジリエントで脱炭素化している未来へ

- 温室効果ガス排出量 (SCOPE1、2)を2030年度までに40%以上削減します。^{※1}
 <KPI> 2013年度排出実績11,714t-CO₂ ⇒ 2030年度目標7,000t-CO₂
- 提供するソリューションの環境パフォーマンス向上により、気候変動の緩和と適応に貢献し続けます。
- ステークホルダーの皆さまとも連携し、サプライチェーンを含む温室効果ガス排出量削減に取り組みます。
- 再生可能エネルギーの利用の促進に貢献します。

資源が循環している未来へ

- 持続可能な資源利用を実践します。
- 自社オフィスから排出する産業廃棄物処理について、ゼロエミッション^{※2}を継続します。

自然と共生している未来へ

- 生態系を保全するため、あらゆる活動を通じた取り組みを積極的に推進します。また、ステークホルダーの皆さまとも協働していきます。

^{※1} オフィスでの電力などのエネルギー使用および社有車等による燃油等の使用に起因する温室効果ガス排出量。基準年は2013年度。

^{※2} NTTファシリティーズグループでは「最終処分率1%以下」をゼロエミッションと定義しています。



Theme 03

安心・安全な コミュニケーション

信頼性の高いインフラを、普及させる

NTTファシリティーズは、先進技術を活用したファシリティの高信頼化、快適化を積極的に提案し、レジリエントで安全・安心なインフラの進化と普及を推進し続けます。

ICT社会の浸透は、インフラに新たな課題をもたらす

現在、ビジネスや日常生活を支えるファシリティには、多彩な電子機器が組み込まれており、それらはIoTの浸透を背景に急速にネットワーク化されつつあります。相互に連携し高度に制御された社会インフラの構築と浸透は、人類に利便性や快適性をもたらす一方で、同時に「万一」の際の経済活動への影響の甚大化、長期化リスクも内包しており、その確実な管理と保守が新たな社会課題となりつつあります。

AIの助言で「未来の故障」を予測するという考え方

私たちNTTファシリティーズでは、IoTとAIを組み合わせることで、装置の故障を「予見」する技術の研究開発を推進しています。故障する可能性が高い装置を見極めることができれば、具体的なデータに基づいた設備更改の提案ができます。全国で約20万という膨大な装置の遠隔監視とメンテナンスを行っている私たちは、これらの装置の稼働状況のデータをIoTにより蓄積。AIを活用した分析に挑戦しています。

外部要因

温度、湿度などの利用環境

経過時間

利用開始からの総稼働時間

即時的影響

大きな瞬間的負荷

累積的影響

蓄積される継続的負荷

AIを用いた、2005年～2014年の装置データの検証

GVAモデルの「正解率」**98.9%**を達成

高い分析精度を達成した、「GVAモデル」

これらの取り組みは、NTTサービスエボリューション研究所と共同で展開しており、その成果は「故障予見モデル(GVAモデル)」として実を結びつつあります。利用環境や稼働時間、外部からの負荷の発生などを変数とした同モデルは、2005年からの10年間のデータを基にした分析で98.9%という高い「正解率」を達成しました。私たちは、今後同モデルを実用化し、稼働状況に即した故障予測及び具体的なデータを示した最適な装置更改提案を展開したいと考えています。

快適なインフラを、守り続ける

装置の故障は一樣ではなく、様々な要因があります。GVAモデルは、故障の発生状況や現場の知恵をヒントに、機械学習の技術を採用入れたものです。故障発生前に予め対処可能な「予知保全」の実現に活かしたいです。

また、NTTグループの使命ともいえる「通信を24時間365日途絶させない」サービスの一助となるよう貢献します。

NTTファシリティーズ

研究開発部

データマネジメント部門 設備マネジメント担当

金谷 會城





Theme 03

チームNTTの コミュニケーション

多様性を尊重し、活かす職場を実現する

NTTファシリティーズは、共に働く仲間の多様性を尊重することは勿論、その個性を互いに活かす「チーム」としての職場づくりを積極的に推進します。

グローバルな経営テーマとなった、 ダイバーシティ&インクルージョン

人々の多様性の尊重を徹底し、かつ、各々の個性が十分に活かされる仕組みを作ることで、社会全体で持続的な共栄関係を実現する。ダイバーシティ&インクルージョンの考え方は、近年、世界経済のボーダレス化や価値観の多様化、先進国における少子高齢化などをうけ、基礎的な社会的責任に留まらず、企業の持続的な成長力に貢献する経営テーマとしても脚光を浴びています。

多様性を増しつつあるNTTファシリティーズ

私たちNTTファシリティーズも、事業の拡大とともに、その多様性を増しつつあります。2018年3月末日現在、全従業員に占める女性の割合は9.3%であり、また事業内容及び地域の拡大に伴い、多様な価値観や文化、国籍等のバックグラウンド、ワーク・ライフ観を持つ人材が集う職場となっています。このような中、私たちはダイバーシティ推進室を中心に、各種施策を展開し、ダイバーシティを尊重する企業文化・風土の醸成を図っています。

NTTファシリティーズ
のダイバーシティ推進
(2017年度、NTTファシリティーズ単体)

育児休業
取得者数

49名

育児短時間勤務
取得者数

50名

年次有給休暇
平均取得日数

18.4日

LGBTへの取り組み「PRIDE指標2017」ゴールドを受賞

近年、LGBTすなわちレズビアン・ゲイ・バイセクシュアル・トランスジェンダーなどの性的マイノリティに関する尊重と配慮の必要性が唱えられています。私たちもその重要性にいち早く留意し、グループでの啓発活動や人事制度への加味、コミュニティ支援などを積極的に推進してきました。この結果、LGBTの尊重と定着を支援する任意団体work with Pride (wwP) が策定した評価指標「PRIDE指標2017」において、昨年に引き続き「ゴールド」を受賞しました。

生き活きとした職場を、皆で作る

「一人ひとりのワークとライフをともに充実させ、一人ひとりが持てる能力を最大限に発揮できる会社になることで、多様性を強みに変えていける企業になる。」を基本方針として、働き方改革、女性活躍推進、障がい者雇用、LGBT等性的マイノリティに関する取り組みなど、社員の声を反映しながら様々な取り組みをすすめています。

NTTファシリティーズ
総務人事部 人事育成部門 ダイバーシティ推進室 長江 健治



コーポレート・ガバナンス、CSRマネジメント体制

コーポレート・ガバナンス

NTTファシリティーズでは、経営の健全性と透明性、お客様や社会からの信頼を維持し、企業価値を継続して高めていくため、コーポレート・ガバナンスを経営の重要課題と位置づけ、ガバナンス体制を構築しています。

取締役会と監査役

取締役会は取締役17名で構成され、原則、月1回開催する取締役会において、経営に関する重要事項を関係法規、経営判断の原則及び善良なる管理者の注意義務等に基づき決定するとともに、取締役の職務執行の相互牽制などを行っています。

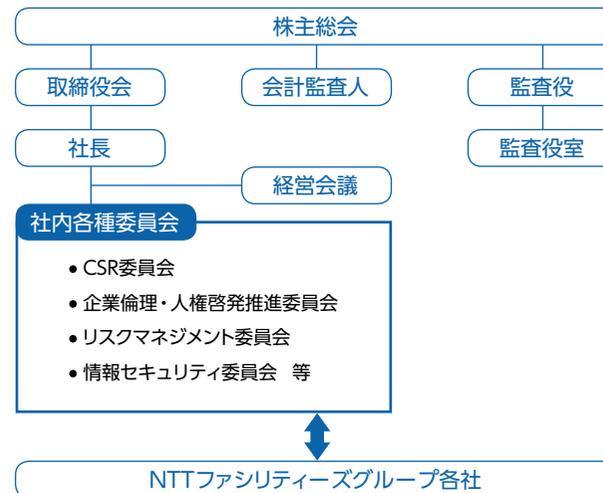
監査役(3名)は、独立の立場から取締役の職務の執行を監査することにより社会的信頼に応える良質な企業統治体制を確立する責務を負っており、取締役会など重要な会議に出席するほか、会社の業務及び財産の状況に関する調査等を行っています。

経営会議と各種社内委員会

NTTファシリティーズでは、会社の重要事項について、原則として、社長、副社長、常勤取締役、各組織長及び監査役で構成する経営会議における審議を経たうえで決定しています。

また、会社経営・グループ経営に関する重要事項を課題ごとに議論し、適正な意思決定を行うための各種委員会を設置しています。

■ NTTファシリティーズのガバナンス体制



内部統制システム

NTTファシリティーズでは、NTTグループ全体の「内部統制システムの整備に関する基本方針」などに従い、同システムに必要な措置を実施することを取締役会で決議し、規程や体制などの整備に取り組んでいます。

また、財務報告に係る内部統制システムについても、内部監査などにより有効性を確認しています。

CSRマネジメント体制

NTTファシリティーズグループは、NTTグループのCSRテーマに即したCSR重点活動項目を推進し社会に新たな価値を創造する一方、自社グループが社会に一層の責任を果たし続けるため、特に「企業倫理」「環境保護」「人権啓発」をCSRマネジメントの柱と位置づけています。具体的には、それぞれに社内委員会を設置し、企業ビジョンとの整合性を確保しつつ、基本方針・制度・基準・活動要領などを策定し、研修などの一体的な運営を行っています。これらをもとに、事業を通じた影響を正負両面で管理しています。

また、CSRマネジメントをグループ横断で推進する要としてCSR推進室を本社と各地域会社に設置し、本社CSR推進室を中心に緊密な連携を図りながら、当グループの一体感を高め、横断的なCSR活動を推進しています。

■ NTTファシリティーズグループ CSR推進体制

NTTファシリティーズ本社CSR推進室

本社内各組織CSR担当者

各地域会社CSR推進室

- ・NTTファシリティーズ中央
- ・NTTファシリティーズ北海道
- ・NTTファシリティーズ東北
- ・NTTファシリティーズ東海
- ・NTTファシリティーズ関西
- ・NTTファシリティーズ中国
- ・NTTファシリティーズ九州

各グループ会社CSR担当者

- ・NTTファシリティーズFMアシスト
- ・NTTファシリティーズ総研
- ・NTTファシリティーズエンジニアリング
- ・NTT FACILITIES USA
- ・Unitrio Technology
- ・Pro-Matrix
- ・Electronic Environments Corporation
- ・エネット

※2017年7月 NTTジーピー・エコとNTT IPDIは合併し、NTTファシリティーズエンジニアリングと社名を改めました

NTTグループの一員として

グループ一体でのCSRの推進

近年、国連総会において「持続可能な開発目標(SDGs)」の採択や、COP21での「パリ協定」の採択など、地球規模での持続可能な社会への取り組みが強く要請されています。このような背景を踏まえ、NTTグループ各社が一体となってCSRを推進していくための重要な課題(マテリアリティ)である「NTTグループCSR重点活動項目」を見直し、2016年5月に「NTTグループCSR憲章」を改定しました。

NTTファシリティーズは、改訂したNTTグループのCSR憲章を踏まえ、引き続き、グループ一体となり社会の課題解決に取り組めます。



NTTグループCSR委員会

NTTグループでは2015年度よりNTTのCSR委員会委員長(代表取締役副社長)を委員長とし、主要グループ8社のCSR最高責任者(副社長、常務取締役)を委員とした「グループCSR委員会」を設立し、グループ全体におけるCSRマネジメントの進展を図っています。

NTTグループCSRカンファレンスへの参加

NTTグループのCSRに関する優良施策をグループ横断的に共有することで、社員のCSR意識の浸透を図り、今後のCSRや社会貢献のあり方について考えることを目的として、2013年度より「NTTグループCSRカンファレンス」を開催しています。

企業倫理・人権啓発・コンプライアンス

企業倫理・人権啓発推進体制

NTTファシリティーズでは、企業倫理の徹底と人権啓発の推進強化に向けた取り組みを審議・決定することを目的に、コーポレート担当の取締役を委員長とした企業倫理・人権啓発推進委員会を設置しています。同委員会は、原則として年2回定期開催するほか、社員から不正行為などの申告・相談があった事案について、事実関係の調査・究明に当たります。

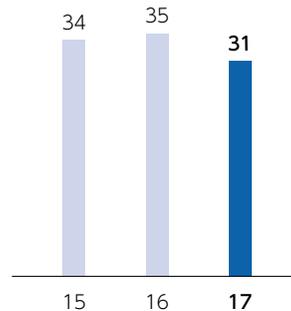
相談窓口体制の充実

NTTファシリティーズでは、不正・不祥事の未然防止のみでなく、早期に問題の顕在化を図り迅速に対処することを目的に、企業倫理相談窓口として、「企業倫理ヘルプライン」を設置しています。また、NTTグループの横断的な窓口として弁護士による社外相談窓口を活用し、当グループ内のほか、取引先など社外からの相談も受けつけています。

これらの相談窓口の周知は、社内誌や社内HPなどのほか、「職場の悩み110番(セクハラ・パワハラ・人権問題等)」、「カウンセリングセンタ(人間関係、家庭、仕事等)」の相談窓口全ての連絡先を記載した携帯カードを作成し、全社員に配付しています。

■ 企業倫理ヘルプライン・

人権相談窓口への申告件数(件)



企業倫理意識の向上施策

NTTファシリティーズでは、不正・不祥事、人権、セクハラ・パワハラ、情報流出、飲酒運転等、企業倫理に反する事象の撲滅と企業倫理の推進を目的に毎月21日を「企業倫理の日」と定め、各職場において企業倫理に関するディスカッションを行うなど、社員一人ひとりの企業倫理意識のさらなる向上を図っています。

さらに毎年、全社員が不正・不祥事、法令違反、人権問題などについて、わかりやすく理解できるよう具体的事例を挙げて、何が不正・不祥事などに当たるのかをクイズ形式で学ぶ「企業倫理等eラーニング」も実施しています。

企業倫理・人権啓発アンケートの継続実施

企業倫理や人権啓発に関わる施策の浸透状況や社員等の意識、風通しの良い風土などについて、アンケートにより現状を把握し、NTTファシリティーズグループにおける今後の企業倫理・人権啓発活動のさらなる徹底・意識向上に向けた取り組みとしてWebアンケートを継続的に実施しています。2017年度は、2018年2月にNTTファシリティーズグループ社員等を対象に実施しました(回答数:6,646人)。今後も、アンケートの結果を踏まえつつ、遵法かつ倫理的な事業慣行を企業グループ全体に維持・浸透していきます。

■ 企業倫理アンケート結果の一例

「NTTグループ企業倫理憲章」あるいは「企業倫理憲章」を知っている
日頃から、高い倫理観やコンプライアンス意識を持って行動している
経営層のコンプライアンスを遵守することの重要性等、企業倫理に関する発言を聞いている





研究開発の中核拠点

新大橋ビルの成果とこれから

実証研究の場として、挑戦を続ける

NTTファシリティーズ新大橋ビル(以下、新大橋ビル)は、先進的なファシリティの可能性を検証する開発拠点として、着実に成果をあげてきました。開設5年目を迎え、その挑戦の場はさらに広がりを見せています。

新大橋ビルのミッション

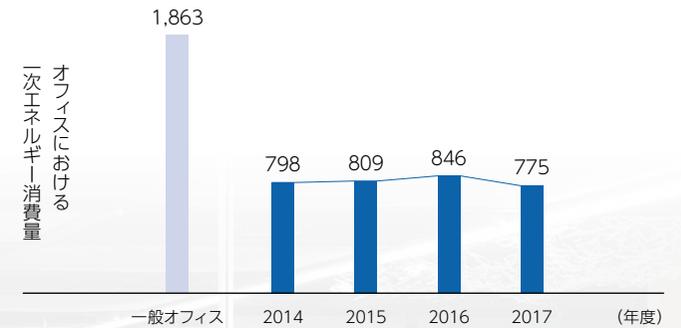
新大橋ビルは、当社創立20周年記念プロジェクトとして2014年に新築した自社ビルです。オフィスのほか、小規模なデータセンターや各種実験室を備えており、研究開発部とICTシステム部が開発業務を行っています。ここで新たな技術を考案するだけでなく、実際に設置して自ら使ってみて、効果を定量化するところまで一貫して行う「実証実験型オフィス」として開設されました。当社の事業競争力の源泉となる技術、製品・サービスを継続的に創出することが期待されています。

最先端の環境配慮型オフィスビル

当社は限りあるエネルギーを効率的に無駄なく使うことを標榜していますが、新大橋ビルも最新の環境技術を盛り込んだ環境配慮型オフィスビルとなっています。構築段階において、世界標準の環境性能評価システムであるLEEDの新築ビル向け評価においてGold認証を受けています。

新大橋ビルでは、設備制御チューニングや運用ルールの工夫等、様々な省エネルギー施策を試行するとともに、実際の消費エネルギーを開設時から継続的に計測・評価しています。オフィスビル相当部分における床面積当たりの一次エネルギー消費量は開設時からの4年間、

新大橋ビル 一次エネルギー消費量の推移 (MJ/m²・年)



800MJ/m²前後を維持しており、2017年度は775MJ/m²でした。この値は、一般オフィスビルにおける値(1,863MJ/m²)の半分以下であり、ネット・ゼロ・エネルギー・ビルとしては“ZEB Ready”に相当します。

お客様にご覧いただくことで改良のヒントを得る

新大橋ビルは、当社で開発した技術を取り入れて実証するだけでなく、実際にお客様にご覧いただくようにしています。2017年度までにのべ4,600名を超えるお客様にご見学いただきました。

見学を通じてお客様に当社の製品・サービスや技術力をご理解いただくだけでなく、お客様とのコミュニケーションを通じて得られた情報は、開発の貴重なソースとなっています。

これからもイノベーション・ベースとして

新大橋ビルは開設から4年が経過し、当社の研究開発拠点としてすっかり定着しました。最近ではAIやIoTといった目に見えにくい開発テーマが増えているなか、最終的に人間に作用させる部分は現場で実際に動かして、見て、感じる事が大切です。

引き続き、当社の「イノベーション・ベース」として、環境にも配慮しながら、製品・サービスの創出を進めていきます。

第三者意見

法政大学大学院
人間社会研究科
教授
土肥 将敦 氏

一橋大学経済学部、一橋大学大学院商学研究科博士後期課程を経て、2009年に高崎経済大学地域政策学部准教授。2014年より法政大学に移り、2016年より現職。商学博士。著書に「CSR経営-企業の社会的責任とステークホルダー」共著、中央経済社、「ソーシャル・イノベーションの創出と普及」(共著、NTT出版)などがある。



着実な成果と進展

NTTファシリティーズグループでは、「パリ協定」の発効、SDGsの採択という国際的な環境・社会面に関する状況が刻々と変化する中で、2030年度に向けた新たな長期環境目標を設定するなど、自社のめざす方向性を明示している。とくに今年度の報告書では、ハイライト版の焦点が従来より絞られ、一般読者層や従業員へとCSRテーマの周知徹底を図る意思を一層強く感じるようになったことを、着実な成果として評価したい。報告内容に目を向けるとP9-14では全てのCSRテーマにおいて各部門の担当者がSDGsへの貢献を意思表示しており、また、巻頭財務・非財務ハイライトからは昨今求められているセキュリティ人材の育成にも着実な成果が見られるなど、社内のCSR経営に対する機運の高まりを見て取ることができる。社会的インパクトの追求とともに今後も着実なCSR経営の進化を期待したい。

この機運を確実に加速するため、次年度以降に向けての課題は、今や明白である。大きく3点を提案したい。

CSRマイルストーンを定め、ステークホルダーと協働し、NTTグループのシナジーを活かす仕組みの推進を

第1に、過年度に指摘した内容と重なるが、新たな長期環境目標が定められた今、環境面以外も含むCSR中期目標(マイルストーン)の必要性が高まっている。同社のCSRテーマは環境面以外も含む4つの要素で構成されており、各々につき進捗の目安となるKPI(Key Performance Indicator)を設定し社内外に共有していく仕組みをつくることで、従業員のモチベーションが上がり、社内のCSR文化が一層醸成されると考える。例えば、SDGsの17目標やそれに紐づく169のターゲットには、同社事業へのヒントが数多く含まれている。これらに基づき、年休平均取得日数や女性比率(SDG 5)、セキュリティ人材数(SDG 11)や地域創生事業での参画プロジェクト数(SDG 9)などの社会面KPIを設定し、「数字でCSR全体を語る」ことこそ、同社の次なる課題でありチャンスではないだろうか。

第2に、本報告書を活用したステークホルダー・エンゲージメントの拡充に期待したい。今年度の報告書の成果を活かす取り組みとして、特に従業員や取引先を巻き込んだエンゲージメントが有効である。エンゲージメントにおいては、本来的には、

事業活動からネガティブな影響を受けている従業員、サプライチェーン労働者、地域社会などのステークホルダーとの建設的な対話が重視されているが、まずは本報告書を活用して従業員、取引先等のステークホルダーとの対話から着手してほしい。

第3に、CSR経営に係る国内外のNPO/NGOとのさらなる連携強化も求められる。NTTグループは、今年度、エネルギー効率や再生可能エネルギーに関する国際イニシアティブであるEP100(企業におけるエネルギー利用効率を引き上げることをめざす企業連合)やEV100(事業用車両のEV化をめざす企業連合)への参加を表明している。これを契機に同社もさらなる成長機会が国内外に期待されるが、事業拡大に際しては労働・人権等の社会面でも社外組織との連携強化に留意し、調和ある成長を推進してほしい。

最後に、同社では、P16にあるようにNTTグループの一員として、CSR憲章の共有やCSRマネジメントの連携強化、優良施策のグループ共有等を実践している。そこでどのような議論が行われ、またファシリティに関わる新しい価値提案がどうなされたのかが重要である。NTTグループ全体のシナジーを活用した同社のさらなる取り組みに、引き続き期待したい。



ファシリティーうさぎ『エコロじい』

ファシリティーうさぎ『エコロじい』とは、ファシリティーというお茶が大好きな、ECOを愛するウサギの老紳士です。

NTTファシリティーズのキャラクターとして
テレビCMなどで当社のECOをご案内しています。

お問い合わせ先

株式会社NTTファシリティーズ CSR推進室

〒108-0023 東京都港区芝浦3-4-1 グランパークタワー

Tel : (03) 5444-5187 Fax : (03) 5444-5610

Eメール: xa05999@ntt-f.co.jp

URL: <http://www.ntt-f.co.jp/csr/>